

伊丹教会元旦礼拝説教要旨 1月1日

「主の招きの初め」

山本一牧師

マルコによる福音書 1章14～15節

●マーク・キースリーという画家の描いた「Dance of Grace」という絵があります。イエス様が子ども達と手をつなぎ笑顔でダンスをしている絵です。伝統的なキリストの絵はシリアスな顔や無表情なものが多いのに対して、この絵はイエス様が口をあけて笑っています。イエス様がこの世に来られたのはこの絵のように私たち全て、一人も残さず救いと喜びの輪に入れるためだと思うと、この絵がとても大切に思えました。

●今日の聖書はマルコが伝えるイエス様の宣教の初めの言葉です。ここに記された「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」という言葉は本来のイエス様のメッセージから離れて、硬く難しい訳語になってしまっています。「悔い改める」の原語は「メタノイア」で、心のあり方を変えるという意味です。つまり不安や恐れ、絶望に目を向けているあなた方は、神さまに心を向けなさい。という意味です。また「福音」という言葉も「神さまからの良い知らせ」という意味であり、つまりイエス様は陰しい顔で「裁きの言葉」を述べられたのではなく、笑顔で「私が来た今、あなたはそのまま神のご支配の中にいるのだから、喜んで生きていきなさい」と招かれたのです。そして、その生涯を通して出会う人たちをそのまま愛し、「あなたはそのまま尊い価値ある存在です」という思いを時に言葉として伝え、時に行いで示されたのです。

●ただ現実の生活には「喜びたくても喜べない時」もあります。しかし、そんな時にこそ「Dance of Grace」の絵を思い起こし、そして今日歌う「踊り出る姿で(Lord of the Dance)」という讃美歌を思い出したいのです。

「踊りなさいあなたがどこにしようとも私は Lord of the Dance(踊りの主) 私があなたをリードするよ」(英語の歌詞の原文)

この讃美歌の伝えているメッセージの素敵なところは「イエス様があの十字架の苦しみの中でも踊り続けた。つまり希望を持ち続け、死にもこの世の悪にも打ち勝ち復活されたのだ」と歌っているところです。そのイエス様があなたと共にあるから、どんな時にも喜び踊る事が出来るんだよ、と歌っているのです。

●新しい年 2025 年の私たちの生活にも、喜び踊るなんて到底無理、と思う出来事もあるでしょう。けれども死に打ち勝ち、常に希望がある事を示してくださった主を思い起こして、ご一緒に歩んでまいりましょう。

